

## 「ザル」の目から考える新型コロナ対策

(六月中旬執筆)



医療法人おのクリニック  
院長 小野 薫  
(周南市立菊川小学校校医)

日本全体がこれまでの日常を思い出そうとしつつも、「新しい生活様式」を取り入れ、新型コロナがいる世界「ウイズ・コロナ」をどう生きていくのか模索中です。このような中、山口県下の学校も授業再開しましたが、現場の教職員の方々は今も大きな不安を抱えながら、日々対応に迫られていると思います。

遅れましたが、私は周南市で内科系診療所を運営しております。専門は循環器内科ですから、新型コロナの専門医でも何でもありませんが、小学校の先生と一緒に考える中で、このような機会を頂きました。具体的な感染対策はガイドラインに沿ってやって頂きたいと思いますが、考え方の一助となればと思います。

さて、昨年までは新型コロナの姿はなく、インフルエンザ(以下、インフル)に対する感染対策が主でした。でもどうでしょう？毎年流行し、学級・学年閉鎖していませんでしたか？はつきり言って今までの感染対策って、やった気になっていただけの「ザル」対策だったということ。今までを振り返りながら新型コロナ対策を考えると、「ザル」の目が見えてくると思います。

まず、入り口。感染症が学校に入ってきたためには、門を固く締めおかないといけません。インフルの場合、ここが大きな「ザル」の目でした。振り返ると、今までは少々の熱、体調不良で学校を休むと、「ズル休み」「根性なし」と言われ、「内申書に響く」「皆に迷惑かける」と無理して学校に行っていました。つまり、正門から堂々とインフルが入ってきていたのです。今、「新しい生活様式」と言われていますが、新型コロナ対策の一番の肝はここで、調子悪いな？熱があるかな？と体調不良を感じたら、休んで学校に行かない。つまり、新型コロナを含め感染症を発症した生徒、教

職員は学校には入ってきてはいけない。これが前提になっている必要があります。

入り口で発症者をブロックできたとしても、新型コロナは症状が出る二〜三日前から周囲に感染させると言われ、ここが厄介です。症状がなければ登校するわけで、無自覚の生徒、教職員から感染が広がる可能性を想定しておかないといけません。次からの対策はそのためのものにもなります。

まずは、マスクや手洗い。マスクの装着は昨年までは今ほど徹底されておらず、手洗い、消毒もそこまで強く言われていませんでした。ここはずいぶん違うはず。次に、いわゆる「三密」。流行語大賞になりそうですが、これは今まで意識されていませんでした。昨年までは、「週末に試合(室内競技)があった」、「模試があった」と、「三密」で敢えなく感染し、週明け多くのインフル患者さんが病院に押し寄せていました。「三密」対策は功を奏しそうです。

有症状者の侵入をできるだけブロックし、無症状者の侵入は避けられないけど、マスク、手洗い、「三密」対策で、感染するウイルス量を減らし、うつりにくい環境を作る。そうすれば最小限で済むということです。風邪は基本的にウイルス感染症で、他人にうつす可能性があります。今までインフルだけでなく、「ノロが…」「アデノが…」と様々な感染症の流行を耳にしたことがあると思います。「コロナじゃないからいいだろう」ではなく、すべての感染症をうつきないようにする意識がこれからは大切です。

それから、そもそも学校現場で完璧な感染対策は不可能で、限界を知ること大切です。どんなにやっても、子どもたちは密集・密接するものです。マスクに拘るあまり、熱中症で倒れては本末転倒です。できる予防策を無理せずコツコツと行い、早期に気づき、対応する意識も大切です。

もうひとつ大切なこと。新型コロナは、大人が家庭に持ち込み、子どもにうつすことで学校に持ち込まれるということです。皆さんご存知のように新型コロナは子どもが少なく、大人からうつされていることが大半です。もちろん、塾や習い事等で、校区を越えた移動が増えると、子どもたちからの発生がないわけではありません。また、中学、高校となると行動範囲が広くなります。親、教職員が持ち込まないことに重点が置かれる小学校と異なり、中・高校では生徒自身の自覚も重要です。

どうでしょう？、こう考えると、新型コロナの姿が見えてきませんか？、インフルのときの「ザル」の目を知り、意識して対策すれば、なんとか戦えるはず。最後に、インフル対策を「ザル」と言いましたが、インフルと共に生きる生活様式であったとも言えます(リスクをある程度踏まえ、生活・経済を謳歌していた)。ご存知のとおり、インフルも「スベイン風邪」と言われた頃は、世界中で猛威を振るい、多くの命を奪いました。まさに今の新型コロナと同じだったわけですが、その後人類は予防策を知り、ワクチンや治療薬も手にし、インフルと共に生きてきました。新型コロナも早くそんな日が来ることを祈るばかりです。

※この原稿は六月中旬に書きました。現在(九月初め)は第二波が訪れ、状況・情報も日々変わっています。内容はその時点での個人的見解となります。



児童用三密防止啓発ポスター  
(周南市立菊川小学校職員作成)